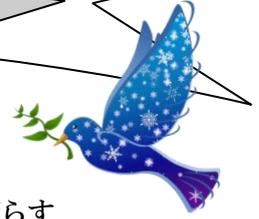


～輝きの子育て～

令和の幕開け



しよしゆん れいげつ 初春の令月にして きよく やはら 梅は鏡前の粉を披き らん ばいご こうかを薫らす

我が国最古の歌集「万葉集」が典拠となった新元号「令和」。国書を典拠とする元号は初めて。「令」の文字が使われるのも初めてで、その本義は「形が整っていてうるわしい」という意味のようです。元号の考案者といわれている、中西進さんは「うるわしき和の精神」を世界に広めていくことが次代の日本人の務めだと語っておられます。

日本の花と言えば桜ですが、梅は海外より入ってきたと言われます。海外文化を受け入れ、花開かせる日本人の柔軟性と知恵の深さの象徴でしょうか。

令和元年、日本中が歓喜に包まれ、新たな時代がやってくる、そんな喜びに満ち溢れていました。象徴としての天皇家を中心に日本がまとまり、この令和の時代が戦争もなく、平和で、国民皆が、幸せであることを願わざるを得ない気持ちです。

歴史を簡単に振り返ってみれば、昭和の時代はまさに激動の時代でした。大戦を経て、荒廃から復興を遂げ、経済大国となりました。

1950年代後半では神武景気のころ、豊かさやあこがれの象徴として「三種の神器」白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫等が生活の中に一つずつ取り入れられてきました。今に比べ貧しく、不便でしたが誰もが明日を信じられる明るさと希望があったように思います。

1959年、皇太子明仁親王と美智子様のご成婚は。私達国民に皇室がより身近に感じさせるものでした。美智子妃の奥ゆかしい品格に感動したものです。

1964年、東京オリンピック、まさに日本が大きく成長した感がありました。

平成は災害の多い時代でした。

平成3年 雲仙普賢岳の噴火に伴う大火砕流 5年 北海道南西沖地震
7年 阪神大地震 16年 新潟県中越地震
23年 東日本大震災 多数の死傷者を出す大きな自然災害でした。



阪神大震災の遺族から贈られたヒマワリの種を咲かせ、今年最後の歌会始で披露された平成天皇の歌
「贈られし ひまわりの種は 生え揃ひ 葉を広げゆく初夏の光に」

平成17年「終戦60周年」の年の歌会始で平成天皇がお詠みになった歌

「戦なき世を歩みきて 思い出づ かの難き日を生きた人々」

天皇が常に国民のことを思い、寄り添ってこられたことが伺えます。

また、平成の時代はバブル崩壊、金融破綻、財政の悪化、少子化や過疎化、日本衰退の時代でもありました。

産経新聞、中西輝政名誉教授が正論の中で書かれていることが、とても気がかりになりました。

「御代替わりの年はとかく内外の激動が日本を襲う」という歴史のジンクスがあるようです。

「令和」の時代が戦争、災害もなく平和な時代であることを切に願いたいものです。